**JavaScriptとは**

JavaScriptは、ウェブページを動的に操作し、対話的な体験を提供するためのプログラミング言語です。ウェブ開発において、HTML（構造）、CSS（スタイル）、JavaScript（動作）の3つが主要なコンポーネントとして使用されます。JavaScriptは、ウェブブラウザ内で動作するクライアントサイド言語として広く使われています。

**JavaScriptの特徴**

**対話的なウェブページ**: JavaScriptを使用することで、ユーザーとウェブページが対話的にやり取りできるようになります。ユーザーの操作に応じて要素を変更したり、新しいコンテンツを表示したりすることができます。

**動的なコンテンツ**: ウェブページをリアルタイムで更新することができます。例えば、フォームの入力に基づいて結果を計算し表示するなどが可能です。

**イベント駆動**: JavaScriptはイベント駆動のプログラミングモデルを採用しています。ユーザーのアクション（クリック、マウスオーバーなど）や、時間の経過に応じたイベントに反応してコードを実行できます。

**クロスプラットフォーム**: JavaScriptは主にブラウザ内で実行されますが、Node.jsと呼ばれる環境を使用することで、サーバーサイドでも動作することができます。

**JavaScript入門: 変数**

**変数とは何か？**

変数は、プログラム中でデータを保存・操作するための入れ物です。名前を付けてデータを保持することができ、その名前を使ってデータを呼び出すことができます。

**変数の宣言方法**

JavaScriptでは、3つのキーワードを使用して変数を宣言することができます: **var**, **let**, および **const**。それぞれの違いについて見てみましょう。

1. **var**: これは古い変数宣言の方法ですが、古いブラウザの互換性のために残っています。ただし、スコープの扱いがやや特殊です。
2. **let**: これはブロックスコープ内で有効な変数を宣言します。同じ名前の変数を同じブロック内で再宣言することはできません。
3. **const**: **const** は変更不可能な定数を宣言します。一度値を代入すると、後から変更することはできません。

**変数の例**

テキスト

自動的に生成された説明

**変数名のルール**

・変数名はアルファベット、数字、アンダースコア（\_）、またはドル記号（$）を使用できますが、数字で始めることはできません。

・変数名は大文字と小文字が区別されます（**name** と **Name** は異なる変数です）。

・変数名はわかりやすく、意味のある名前を付けることが重要です。

**JavaScript入門: 変数、定数、let、const、varの違い**

**変数と定数の違い**

**変数**: データを保存・操作するための入れ物で、値が変更可能です。

**定数**: データを保存・操作するための入れ物で、値が一度設定されたら変更できません。

**letとconst、varの違い**

**・let**: ブロッスコープ内で有効な変数を宣言します。同じ名前の変数を同じブロック内で・再宣言できません。

**・const**: 変更不可能な定数を宣言します。一度値を代入すると、後から変更することはできません。

**・var**: 古い変数宣言の方法で、スコープの特殊な扱いがあります。ブロックスコープを無視して関数スコープとして扱われます。

**データ型とは**

データ型は、プログラム内で使用されるデータの種類を定義するための仕組みです。各データ型は、メモリ内でのデータの保存方法や操作方法に影響を与えます。プログラムがデータを効果的に扱うためには、適切なデータ型を選択することが重要です。

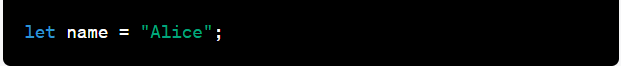
JavaScriptにはいくつかの基本的なデータ型があります。

**数値型 (Number)**: 数値を表すためのデータ型です。整数や浮動小数点数を扱えます。

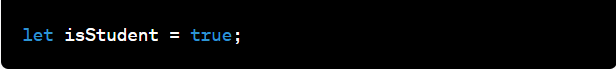
テキスト

中程度の精度で自動的に生成された説明

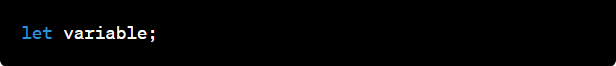
**文字列型 (String)**: 文字の連なりを表すためのデータ型です。



**ブール型 (Boolean)**: 真（true）または偽（false）の値を表すためのデータ型です。



**未定義型 (Undefined)**: 値が定義されていないことを示すためのデータ型です。

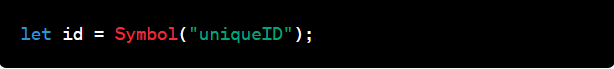


**ヌル型 (Null)**: 値が存在しないことを示すためのデータ型です。



**シンボル型 (Symbol)**: シンボルを表すためのデータ型で、一意な識別子として使用されます（ES6以降）。

グラフィカル ユーザー インターフェイス, テキスト

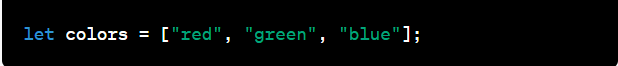
自動的に生成された説明

**オブジェクト型**

JavaScriptでは、オブジェクトも重要なデータ型です。オブジェクトは複数の値や関数をグループ化して扱うための構造です。

**配列型 (Array)**

配列は、複数の値を順序付けて保存するためのデータ型です。



**関数型 (Function)**

関数は、特定のタスクを実行するための再利用可能なコードブロックです。

グラフィカル ユーザー インターフェイス, テキスト

自動的に生成された説明

**型変換**

JavaScriptでは、異なるデータ型間で変換を行うこともできます。

テキスト

自動的に生成された説明

型変換には明示的な方法（例: **Number()**、**String()**、**Boolean()** 関数）と暗黙的な方法（例: 数値と文字列の結合）があります。

**算術演算子**

算術演算子は、数値の計算を行うための記号です。

**算術演算子の詳細**

**加算（+）**

加算演算子は、数値を足し合わせるために使用されます。

テキスト

自動的に生成された説明

**減算（-）**

減算演算子は、数値を引き算するために使用されます。

テキスト

中程度の精度で自動的に生成された説明

**乗算（\*）**

乗算演算子は、数値を掛け合わせるために使用されます。

テキスト が含まれている画像

自動的に生成された説明

**除算（/）**

除算演算子は、数値を割り算するために使用されます。

テキスト

自動的に生成された説明

**剰余（%）**

剰余演算子は、2つの数値の剰余（余り）を計算するために使用されます。

**テキスト

低い精度で自動的に生成された説明**

**インクリメント（++）**

インクリメント演算子は、変数の値を1増やすために使用されます。

**黒い背景と白い文字

自動的に生成された説明**

**デクリメント（--）**

デクリメント演算子は、変数の値を1減らすために使用されます。

図形

中程度の精度で自動的に生成された説明

**数値の場合**

数値に対して算術演算子を使用すると、期待通りの数学的な計算が行われます。

テキスト

自動的に生成された説明

**文字列の場合**

文字列に対して算術演算子を使用すると、主に「+」演算子が文字列の連結に使われます。

グラフィカル ユーザー インターフェイス, テキスト, アプリケーション

自動的に生成された説明このように、文字列と文字列を「+」演算子で連結することができます。ただし、他の算術演算子（加算、減算など）は、文字列に対して使用すると、自動的に数値への変換が試みられます。

**この場合は？**

テキスト が含まれている画像

自動的に生成された説明上記の例では、**strNum** は文字列ですが、**num** は数値です。文字列と数値を「+」演算子で結合しようとすると、数値が文字列に変換されてから連結されます。

**JavaScript入門: if文**

**比較演算子**

比較演算子は、2つの値を比較して、その関係が真（true）か偽（false）かを評価するために使用される演算子です。

**等しい（==）**

この演算子は、2つの値が等しいかどうかを比較します。

テキスト

中程度の精度で自動的に生成された説明

**厳密に等しい（===）**

この演算子は、値と型が両方とも等しいかどうかを比較します。

**テキスト

自動的に生成された説明**

**等しくない（!=）**

この演算子は、2つの値が等しくないかどうかを比較します。

テキスト が含まれている画像

自動的に生成された説明

**厳密に等しくない（!==）**

この演算子は、値または型が異なる場合に真を返します。

テキスト

自動的に生成された説明

**大なり（>）、小なり（<）、大なりイコール（>=）、小なりイコール（<=）**

これらの演算子は、数値間の大小関係を比較します。

テキスト

自動的に生成された説明

**JavaScript入門:if文**

**if文**

if 文は、特定の条件が満たされた場合に、あるコードブロックを実行するための制御構造です。

**if 文の基本構造**

**if** 文は以下のような基本構造を持ちます。

テキスト

自動的に生成された説明

**if 文の例**

以下は、**if** 文を使用した例です。

テキスト

自動的に生成された説明

上記の例では、**age** の値が **18** 以上である場合、**"成人です"** というメッセージが表示されます。

**if - else 文**

単純な条件だけでなく、条件が満たされない場合の処理も実行したい場合、**if** 文と組み合わせて **else** 文を使用できます。

テキスト

自動的に生成された説明

**if - else if 文**

複数の条件に対して異なる処理を行いたい場合、**else if** 文を追加できます。

テキスト

自動的に生成された説明

**ネストされた if 文**

**if** 文は、他の **if** 文の中にネストして使用することもできます。これにより、より複雑な条件分岐を実現できます。

モニター画面に映る文字

自動的に生成された説明

**論理式**

論理式（または論理演算式）は、論理演算子を使用して複数の条件を組み合わせることで、真（true）または偽（false）の結果を得る式です。

**論理積（&&）**

論理積演算子は、複数の条件がすべて真である場合に結果が真になります。

モニター画面に映る文字

自動的に生成された説明

**論理和（||）**

論理和演算子は、いずれかの条件が真である場合に結果が真になります。

モニター画面に映る文字

自動的に生成された説明

**論理否定（!）**

論理否定演算子は、条件の真偽を反転させます。

テキスト

自動的に生成された説明

これらの論理演算子を組み合わせて、複雑な論理式を作成できます。

また、カッコ **()** を使用して論理式の優先順位を明示的に指定することもできます。

テキスト

自動的に生成された説明

**switch文**

**switch** 文は、特定の式の値に基づいて、複数の可能な実行パスの中から1つを選択して実行するための制御構造です。複数の **if** 文を使うよりもコードを簡潔に保ちたい場合や、特定の値に応じて処理を分岐する必要がある場合に使用されます。以下に **switch** 文の詳細な説明を提供します。

**switch 文の基本構造**

**switch** 文は以下のような基本構造を持ちます。

テキスト

自動的に生成された説明

**式** の評価結果と、各 **case** の値を比較し、一致する場合にその **case** 内のコードブロックが実行されます。**break** 文は、一致した **case** ブロックの実行を終了し、**switch** 文全体から抜け出るために使用されます。

**switch 文の例**

以下は、**switch** 文の基本的な例です。

テキスト

自動的に生成された説明

この例では、変数 **day** の値に基づいて、対応する曜日の名前を **dayName** に代入しています。

**switch 文の注意点**

・各 **case** の末尾には **break** 文を置くことで、一致したケースの処理が完了した後に **switch** 文を終了させます。**break** を省略すると、一致したケース以降のケースも実行されます（フォールスルー）。

**・default** ケースは、どの **case** にも一致しない場合のデフォルトの処理を指定するために使用されます。

**JavaScript入門:for文**

**for文**

**for** 文は、特定の条件が満たされる間、あるいは特定の回数だけコードブロックを繰り返し実行するための制御構造です。

**for ループの基本構造**

**for** ループは以下のような基本構造を持ちます。

テキスト

自動的に生成された説明

1. **初期化式**

ループ変数を初期化するための式です。通常、ループ変数の初期値を設定します。

1. **条件式**

ループが継続するかどうかを判断するための式です。条件式が真（true）の間、ループは続きます。

1. **更新式**

各ループの終了時に実行される式です。通常、ループ変数の更新を行います。

**for ループの例**

以下は、**for** ループの基本的な例です。

座る, 画面, 時計, モニター が含まれている画像

自動的に生成された説明

この例では、**i** はループ変数です。初期値は **0** から始まり、条件式が **i < 5** の間、ループが繰り返されます。各ループで **i** が更新されて **1** ずつ増加し、結果として **0** から **4** までの数字がコンソールに表示されます。

**特定の回数だけ繰り返す**

テキスト

自動的に生成された説明

**逆順で繰り返す**

**テキスト

中程度の精度で自動的に生成された説明**

**JavaScript入門:配列**

**配列**

配列は、複数の値を一つの変数に格納するデータ構造で、それぞれの値にはゼロベースの番号（インデックス）が割り当てられます。

**配列の作成**

JavaScriptの配列は、**[]** 内にカンマで区切られた要素を記述して作成します。

モニター画面に映る文字

中程度の精度で自動的に生成された説明

**配列の要素へのアクセス**

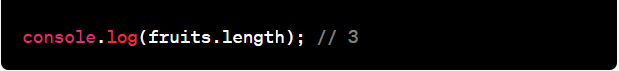
配列の要素には、インデックスを使用してアクセスします。インデックスは **0** から始まります。

テキスト

自動的に生成された説明

**配列の長さ**

配列の要素数は **length** プロパティで取得できます。



**配列の要素の追加・変更・削除**

配列の要素は、インデックスを指定して追加・変更・削除できます。

テキスト

自動的に生成された説明

**配列の繰り返し処理**

配列の要素を繰り返し処理するために、for ループや forEach メソッドなどが利用されます。

テキスト

自動的に生成された説明

**for...of ループ**

ES6以降、**for...of** ループを使用して、配列などの反復可能なオブジェクトを簡潔に処理できます。

画面に写ってる黒い文字

自動的に生成された説明

**多次元配列**

配列の中に別の配列を要素として持つことで、多次元配列を作成できます。

黒い背景に白い文字がある

低い精度で自動的に生成された説明

**配列のメソッド**

JavaScriptの配列は多くの組み込みメソッドを持っており、これらを使用して配列を操作できます。代表的なメソッドには push、pop、shift、unshift、splice、concat、join、slice などがあります。

テキスト

自動的に生成された説明

**JavaScript入門:オブジェクト**

**オブジェクト**

オブジェクトは、関連する情報をグループ化するためのデータ構造で、名前（キー）と値（プロパティ）のペアからなります。

**オブジェクトの作成**

JavaScriptのオブジェクトは、中括弧 {} 内にプロパティを記述して作成します。

**テキスト が含まれている画像

自動的に生成された説明**

**オブジェクトのプロパティへのアクセス**

オブジェクトのプロパティには、ドット . 演算子またはブラケット [] 演算子を使用してアクセスできます。

モニター画面に映る文字

中程度の精度で自動的に生成された説明

**オブジェクトのプロパティの追加・変更・削除**

オブジェクトのプロパティは、新しいプロパティの追加や既存のプロパティの変更、削除が可能です。

**テキスト

自動的に生成された説明**

**オブジェクトのプロパティの繰り返し処理**

オブジェクトのプロパティを繰り返し処理するために、for...in ループが使用されます。

**for...in ループ**

**for...in** ループは、オブジェクトのプロパティを反復処理するために使用されます。

テキスト

自動的に生成された説明

**オブジェクトのネスト**

オブジェクトは、他のオブジェクトをプロパティとして持つことができます。

**テキスト

自動的に生成された説明**